

## 第2回高校生ビブリオバトル・ワークショップ -本を通じて人と出会う-



### 1) はじめに～聖学院大学のビブリオバトルの取り組み

ビブリオバトルは、学生の読書推進だけでなくアカデミックスキル（読む力・書く力・話す力・聴く力）育成のプログラムとしても有効であることから、本学では、教員・学生・図書館が連携してビブリオバトルの積極的な導入を進めている。2013年度より図書館での定期開催がスタートしたほか、授業での導入も進み、現在では、日本文化学科、欧米文化学科、政治経済学科の3学科が授業で開催している。また、2014年度より学内で全国大学ビブリオバトル予選会が開催され、2015年度から二年連続で本学から全国大会本戦に学生が出場を果たしている。そのほか、地域連携として、丸善雄松堂と協力して桶川市のOKEGAWA honプラス+でビブリオバトルのイベントを開催するなど、その活動の幅は大きく広がりを見せている。

### 2) 高校生ビブリオバトル・ワークショップ

高大接続の観点から、2016年度より人文学部の運営で、高校生を対象としたアクティブラーニング（参加型学習）によるワークショップ形式のビ

ブリオバトルを開催している。第2回目となる今回は、2017年7月15日（土）13:00～17:00、エルピスホールにて開催された。県内外から集まった高校生11名のほか、高校教職員7名、大学生ボランティア7名、本学教職員8名が運営及び見学で参加した。

まず始めに本学のビブリオバトルの取り組みを大学生が紹介し、全国大学ビブリオバトル本戦出場者を含む3名の学生による模擬バトルが行われた。その後、3グループに分かれ、大学生のファシリテーターを中心にして読書やビブリオバトルについて意見交換が行われた。始めは多少緊張した様子ではあったが、大学生が上手にリードして、とても和やかな雰囲気での話し合いが進められた。続いてのワークショップでは、ビブリオバトル準決勝が2グループに分かれて行われ、各グループの上位2名が決勝に進出。決勝に残った本はバラエティ豊かなラインナップで、どの生徒も本の魅力を上手く引き出しながら語っていたのが印象的である。また、オーディエンスからも積極的に質疑が出され、会場は大いに盛り上がりを見せた。決勝のチャンプ本は、投票の結果、海城高等学校1年の大熊光汰さんの紹介した「穴 HOLES」が選ばれた。表彰式後の交歓会では、高校生同士、大学生同士、交流を深め、別れを惜しみつつ解散となった。

埼玉県は、ビブリオバトルが盛んな地域でもある。また、2016年度からは、ビブリオバトルが中学校の国語教科書にも一部掲載されるなど、今後、教育機関での益々の普及が予想される。そうした中、本学がこのような取り組みを行うことは非常に意義があり、来年度以降も継続して開催していくことが望まれる。

（文責：中山浩二〔なかやま・こうじ〕 聖学院大学 学術支援部司書課 課長）